

目 次

序	
目 次	
1 調査の経過と概要	3
2 中金堂院の歴史と回廊の建築	4
3 発掘調査の成果	7
(1) 中金堂院回廊	7
(2) 中金堂前庭部	10
(3) 東僧房付近	13
(4) 回廊造営以前の遺構	13
4 出土遺物	14
(1) 瓦磚類	14
(2) 金属製品・銭貨	18
(3) 土器	20
5 成果と課題	21
(1) 本調査で得られた成果	21
(2) 回廊の創建形態について	22
(3) 2条の東西溝の解釈	24
報告書抄録	26

例 言

1. 本書は、「興福寺境内整備構想」にもとづいて進められている、第1期境内整備事業（1998～2007年度）にともなう1999年度の発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、興福寺の委託を受けた奈良国立文化財研究所 平城宮跡発掘調査部が、1999年10月4日から2000年2月16日にかけて実施した。
3. 調査は、高瀬要一・千田剛道・玉田芳英・箱崎和久・山下信一郎・清水重敦が担当し、安村 健（帝塚山大学大学院）が参加した。また、石質の調査・石材の保存処理には、肥塚隆保・高妻洋成があたった。
4. 調査ならびに本書の編集に際しては、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、国立歴史民俗博物館、岩波書店、(株)国際航業、中造園の協力を得た。
5. 本調査は、平城宮跡発掘調査部の第308次調査として実施したもので、各遺構には平城京左京における調査基準に従い一連の番号を付した。発掘遺構図等の座標値は、国土方眼第VI座標系による。
6. 本書の作成は、当調査部部长・田辺征夫の指導のもと調査員全員があたり、全体の討議をへて出土遺物および成果と課題の項を分担執筆とし、他の項の執筆と編集は箱崎和久がおこなった。
7. 遺構・遺物の写真は、牛嶋 茂・中村一郎・杉本和樹および箱崎が撮影した。
8. 図面作成・編集作業の補助には、北野陽子、小倉依子、土井智奈美、宮崎美和、今津朱美、関広尚世、石井咲子、笠井可奈があたった。